

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立 入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 基礎問題の正答率は、4年生と5年生は目標値を下回ったが6年生は目標値と同程度であった。
- ・ 活用問題の正答率は、4年生と5年生は目標値を下回ったが6年生は目標値と同程度であった。
- ・ 興味や関心を高めるために、体験的な活動や ICT の活用、学習規律の徹底を関連付けして授業に取り入れ、課題を解決していく学習を行ってきたことにより、関心を高めることができた。

(2) 課題

- ・ 3年生の学習では、工場の仕事やそこにかかわる人々について学ぶ活動に意欲的に取り組めたが、大田区市内の特徴の理解については、課題がある。
- ・ 4年生の学習では、特色ある地域の理解、自然災害からくらしを守るための学習の理解課題がある。
- ・ 5年生の学習では、産業についての学習や資料の読み取りに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を8.1ポイント下回った。		
第5学年	目標値を8.9ポイント下回った。	令和5年度の目標値を1.9ポイント下回った。 達成率は昨年度より16.5ポイント下回った。	
第6学年	目標値を4.1ポイント下回った。	目標値を7.5ポイント下回った。 達成率は昨年度より10.3ポイント下回った。	令和4年度の5年生の目標値を2.8ポイント下回った。 達成率は昨年度より12.5ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年生は、目標値を11.2ポイント下回った。「地域や市の様子」では、四方位の理解や地図の読み取りの定着が不十分であった。	4年生は、目標値を2.8ポイント下回った。「市の様子の変り変わり」では、写真や資料を基に様子の変化を表現することは正答率が低い。	4年生は、目標値を5.7ポイント下回った。自ら学ぼうとする意欲を身に付けるための工夫を活動の中で行っていく必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は、目標値を8.7ポイント下回り、6年生は6.4ポイント下回った。 5年生の「先人のはたらき」では、年表の読み取りについて正答率が低い。6年生は「日本食糧生産」について日本の輸出入品について、資料の読み取りの正答率が低い。	5年生は、目標値を9.5ポイント下回り、6年生は0.4ポイント下回った。 5年生は「都道府県の様子」について、資料をもとに考えを表現することが不十分である。6年生は「日本の産業」について、情報活用の現状、情報発信・受信の注意点については定着している。	5年生は、目標値を9.6ポイント下回り、6年生は、3.7ポイント下回った。 5, 6年生ともに、生活と学習の結びつきが低く、主体性が不十分だった。

3 授業改善のポイント（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図の正確な読み取りを確認する活動を取り入れる。方位の見方を確認し、基礎を定着させる。 必要な資料を選定して提示し、読み取れることを児童に考えさせ、検討し合う機会を多く設ける。 資料の読み取りに関して、どこを視点におけばよいのか、活動の中で意識させる。	学習内容を自分の生活に置き換えて考えさせ、自分の考えをもち、表現する活動に取り組む。 必要な写真や資料を自ら読み取り、一人学びを設定する。ペア学習、グループ学習で自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やす。	校外学習や実物に触れるような体験的活動に多く取り組むことで、生活と学習の結び付きを意識しながら、自らの問題として感じることができるようにする。 ICT ツールを活用して児童が常時調べ学習ができる環境を設定する。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図を読んだり資料から社会的事象を読み取ったりする活動を設定し、全体で確認することを通して、正しく読み取る視点を定着させる。 社会的用語を身に付けるために用語を用いて説明する場を多く設ける。 正確に資料の読みとりができるように、分かったことを説明する活動を取り入れる。	社会的事象を関連付けたり総合したりして、社会的事象の意味や相互の関連などについてキーワードを使って文章にまとめる活動を取り入れる。 調べたことに自分の考えを加える学びを設定する。ペア学習、グループ学習、ICT ツールを使い共有することで、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やす。	実体験を伴う学習やゲストティーチャーによる学習をできるだけ多く設定し、興味を持たせる。 社会的事象を生活と関連させ、「なぜ」という疑問を大切にした導入を取り入れた問題解決型学習を行うことで、児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。